

# 太宰府中学校 | 学年だより

No.22

R6.1.26

文責：1年学年主任

## 彼の地に思いを寄せて

もうすぐ2月になります。年が明けて、あっという間の1月でしたが、1月とは思えない暖かい日が続き、沖縄では桜が、太宰府ではもう梅が咲きはじめたという話も聞きました。

年が明けてすぐ、痛ましい災害や事故が立て続きに起こり、被災された人々や事故で犠牲になった人々の様子をテレビなどで見る度に、皆さんも心が痛くなったことと思います。

私たち1年生は、9月に「100年目の関東大震災」について学び、大震災のもたらす様々な状況や、今の生活で地震が起こったときにどのように動いたらいいのかを話し合いました。

また、全校生徒が参加した「避難訓練」では、被災した際に活用できる「新聞紙スリッパ」を製作し、万が一のときに役立つスキルを身につけました。

折しも、年が明けての最初の理科の授業は「地震」で、東日本大震災や阪神淡路大震災の様子を見たり、地震の科学的なメカニズムや特徴を学びました。

このような学習を通して、私たちは改めて、「自然の前に人々は無力」であることも思い知らされたことと思います。

しかし、人間には苦難を超える「知恵」と、助け合う「心」をもっています。過去の歴史をたどっても、人類は「知恵と心」で様々な苦難を乗り越えてきた実績があります。

今回の地震に際して、元自衛隊出身の芸人「やすこ」さんが語った言葉が、非常に的を得た内容で、人々の心に響いたと話題にあがっていたので、紹介します。(一部抜粋)

「今の災害に私たちができることはなんですか」という質問に「日常を送れる方はいつも通り日常を楽しむことですかね…！あとは募金とかでしょうか…」と回答。

「自家用車で支援をしに行く道が混み、緊急車両の邪魔で助かる命も助からなくなるので、今皆がいる場所で精一杯日常を送るのが大切かもですね…！

同じ日本に住んでいながら「遠い彼の地」に思いを寄せるとき、私たちができることは微々たるものかもしれませんが、「できることを、できるときに、できるかぎり」で支えることだと思います。

朝、暖かい布団の中で目覚めて、身支度をして、学校に登校して、授業を受けて、友達としゃべって、学校が終われば家族が待っている家に帰って、暖かい食事と風呂、そして布団に入る……

当たり前で過ごすことが「当たり前でなくなる時」どうなるだろうと想像することはとても難しいかもしれませんが、何気ない日常に一回でも「ありがたい」と思うことは誰にでもできると思います。

そして、彼の地で不自由な生活を送っている人々のことを忘れずにいることも大切なことではないかと思っています。

皆さんのお知り合いの方にも、被災されていらっしゃる方がいらっしゃるかと思います。今回の地震により犠牲となられた方々に心よりお悔やみ申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。